渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）　基本計画（素案）概要版

渋谷区『新しい学校づくり』整備方針 01

渋谷区教育委員会では、渋谷区の未来像である「**ちがいを ちからに 変える街。渋谷区**」を目指して、子供一人一人が自分の個性を伸ばし先進的で柔軟な考えを育むための教育に取り組んでいます。また、学校内外におけるさまざまな教育資源を活用して、未来をよりよく生きるための力を身につけることのできる『**未来の学校**』をつくり、学校教育と社会教育の充実を図っています。

整備方針の根底となる３つの柱

整備方針の根底となる考え方として、
以下の3つの柱を軸としたコンセプトを定めています。

新たな学びの場
Learning Place
つながる・広がる・深まる
学びの場

環境への配慮
Environment
最先端の
環境モデル拠点

地域コミュニティの拠点
Community Place
地域をつないで交流を生み
シビックプライドを育む

渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）における基本方針 02

猿楽小学校と鉢山中学校は、令和４年５月に策定した「渋谷区『新しい学校づくり』整備方針」に基づき、**鉢山中学校敷地にて小中一貫教育校として整備することを計画しています。**基本計画（素案）の作成に際しては、新しい学校の姿について、関係者の皆様に情報共有をするとともに、意見交換を行うために、学校長やPTA、地域団体等の代表の皆様で構成された「渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）建て替え準備委員会」を設置し、検討を行ってまいりました。

１．立体的な敷地形状を活かした学習環境の実現

- 限られた敷地面積の中で、校庭面積をきちんと確保する計画とし、安全で使いやすく、9年間を通じて子供たちがのびのびと活動できるような環境を整備します。
- 校舎をコンパクトに計画することで、アクセスしやすい建物配置とバリアフリー化の両立した計画とします。

２．地域開放と生徒の安心・安全な学校生活の両立

- 体育空間をできる限り確保し、異学年交流や協働的な学びなどの多様な教育活動や地域の活動に対応できる計画とします。
- 学校が地域活動の拠点となるように地域開放するエリアを集約し、子供たちの安心・安全が確保された運用しやすいセキュリティ計画とします。

３．小中一貫教育を体現できるラーニング・コモンズの設置

- 立体的なラーニング・コモンズや、開かれた交流学習空間を用意するなど、1年生から9年生を繋いだ学習や交流促進が出来る学校とします。

各エリアの機能構成と動線イメージ

※青枠で囲われた範囲は地域開放エリアを示します

ラーニング・コモンズのイメージ

出典：青山キャンパス（イメージ）

ラーニング・コモンズとは

子供達がタブレットや本で情報収集しながら主体的に学べる共有空間です。一人で集中する学び、グループで協働する学びなど多様な学習スタイルに対応しています。

渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）の建て替えスケジュールについて 03

和暦	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 11年度	令和 12年度～※1
西暦	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030～
当初計画					※広尾中・松濤中の工期延伸による → 解体・建設		
建築計画	基本計画			基本設計・実施設計（予定）		解体・建設（予定） ※1完了時期は今後の設計段階で検討し、R10年度末までに確定する予定です	
校舎	鉢山中学校　既存校舎					仮設校舎 （青山キャンパス）	
	猿楽小学校　既存校舎						

基本計画素案

基本計画素案の詳しい内容は、右記QRコードからご覧いただけます。
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kodomo/gakko-kyoiku/new-gakko/atarashii_gakko_dukuri.html#h2-h75f08bbc25
掲載期間：９月９日まで

問い合わせ先
渋谷区教育委員会事務局　教育政策課　学校施設整備第一係、第二係、第三係
TEL：03-3463-2795
Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）　基本計画素案（概要版）

小中一貫教育校の整備に係る検討の経緯 04

（1）適正な学校規模に関する検討

令和２年度に開催された「渋谷区立学校の在り方検討委員会」では、区内の小・中学校における適正規模化により期待される効果について検討を行いました。

（2）適正規模を図るための再配置の検討

児童・生徒数の将来推計を基に、小規模校化が見込まれる小・中学校の再配置を検討しました。また、一定の集団規模を確保するのため、校種を超えた一貫校化の検討も行いました。

適正規模の目安と検討のポイント

- 法令上の標準：小中学校ともに**12～18学級**
  - 小学校：1学年当たり**2～3学級**
  - 中学校：1学年当たり**4～6学級**
- 渋谷区の通学距離の基準：
  小学校**1.0km**程度、中学校**1.5km**程度となるよう設定
- 小・中学校区の整合性や地域コミュニティとの関係、安全に通学ができるような環境にも配慮

（3）鉢山中、猿楽小、常磐松小、長谷戸小（Cブロック）の検討結果

将来推計では、猿楽小学校・鉢山中学校のいずれも小規模校化（12学級未満）が見込まれます。このため、子供たちの教育環境の改善・向上を図り、小中全体として集団規模を確保するため、猿楽小学校と鉢山中学校の小中一貫教育校を整備することになりました。

猿楽小学校と鉢山中学校を小中一貫教育校として整備することで、将来にわたって**適正な集団規模を確保し、子供たちが豊かな学校生活を送ることが期待できる。**

【参考】令和14年度に開校した場合の利用校舎

※開校年度は今後の設計段階で詳細に検討していきます。開校年度により仮設校舎利用期間も変更となります。

		青山キャンパス仮設校舎			猿楽小・鉢山中新校舎				
R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5
3歳	4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6
4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1
5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
小4	小5	小6	中1	中2	中3				
小5	小6	中1	中2	中3					
小6	中1	中2	中3						
中1	中2	中3							

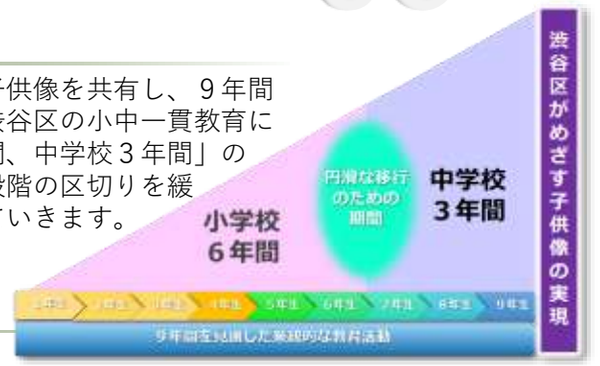
※鉢山中学校の生徒のみ仮設校舎を利用します。猿楽小学校の児童は、小中一貫教育校の開校までは、既存の猿楽小学校に通います。

既存校舎　新校舎　仮設校舎

小中一貫教育について 05

1．小中一貫教育とは

小中一貫教育とは小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、９年間の見通しをもって系統的な教育を目指す教育です。渋谷区の小中一貫教育における教育課程（カリキュラム）は、「小学校６年間、中学校３年間」の枠組みとしながら、４年－３年－２年のように学年段階の区切りを緩やかに設けそれぞれの段階における指導体制を整えていきます。



2．小中一貫教育で期待される効果

- **異学年交流による多様な学びと関わり**
  日常的な異学年交流は、年齢などの違いを超えて学びあう「協働的な学び」を生み出します。
- **学びの連続性を確保**
  教員は、児童・生徒の成長を継続的に把握することができ、個に応じた支援ができます。
- **教職員の連携による子供を見守る体制**
  教職員が小・中学校の枠を越えて連携し、子供たちの成長を長く見守ることができます。
- **教職員の負担を減らし、子供に向き合う時間を確保**
  小・中学校間の教員の仕事の重なりを減らし、仕事を効率よく進めることができます。

3．小中一貫教育校化に伴う主な課題と対応

【課題】小中一貫教育校に中学校から入学する生徒の心理的負担感が出るのではないか
⇒児童・生徒同士が中学校入学前から関わりを持てるような活動を進め、負担感軽減を図ります。
【課題】小学校高学年のリーダーシップ育成が阻害されるのではないか
⇒学校行事での役割分担や卒業式の別日開催などを通して、小学校高学年が責任感や自立心、自覚を高められるよう工夫していきます。
【課題】人間関係や相互評価が固定化されてしまうのではないか
⇒児童・生徒数や教職員数の増加により、多様な関わりが生まれ社会性育成の機会が広がります。

4．渋谷区の小中一貫教育校の基本的な考え方

- **校名・校歌・校章**
  開校の２年前を目途に検討を始める予定です。地域のご意見を聞きながら校名を検討し、学校設置者（区）が決定します。卒業生の思い出と歴史を尊重しつつ未来の児童・生徒のために新たなビジョンを構築することを目指し、慎重に検討します。
- **学校選択希望制**
  鉢山中学校の通学区域は小学校から小中一貫教育校を選択することを特例として認める等の検討を行います。導入時期については、新校舎完成時の小学校６年生が、小学校入学前に中学校選択を見据えて小学校選択ができるよう検討します。
- **学校の特色、教育内容、教育目標など**
  学校の特色は、区の教育政策の方向性を踏まえつつ、区立中学校８校の状況や地域特性等を考慮し、教育委員会において学校長との協議のもと総合的に判断して設定します。教育内容や目標は、各学校ごとに、学習指導要領や区全体の子供の課題等を踏まえ、地域の子供の長所や課題を踏まえ設定していきます。
- **小学校跡地の活用**
  小学校跡地は、周辺校の建て替えのための代替校舎として利用します。代替校舎としての利用が終了した後は、「整備方針」に記載のとおり、第２グラウンドとしての活用を想定していますが、今後の地域のニーズ等を踏まえ検討します。 具体的な検討は、代替校舎としての利用が終了する数年前からとなる予定です。

基本計画素案

基本計画素案の詳しい内容は、右記QRコードからご覧いただけます。
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kodomo/gakko-kyoiku/new-gakko/atarashii_gakko_dukuri.html#h2-h75f08bbc25
掲載期間：９月９日まで

問い合わせ先
渋谷区教育委員会事務局　教育政策課　学校施設整備第一係、第二係、第三係
TEL：03-3463-2795　Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）　基本計画素案（概要版）

06 学校施設の規模

校舎棟

用途	:学校(小学校・中学校)
建築面積	:約 3,000㎡
延べ面積	:約 12,300㎡
階数	:地上 4 階 / 地下 1 階
建築物の高さ	:20m程度
構造	:鉄筋コンクリート造（想定）

体育棟

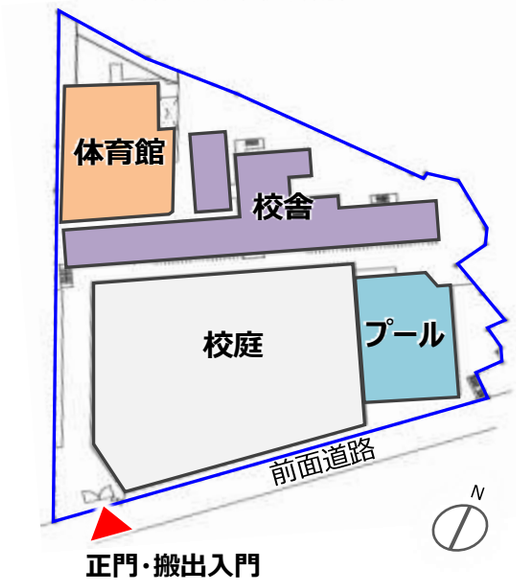
用途	:学校(小学校・中学校)
建築面積	:約 110㎡
延べ面積	:約 4,200㎡
階数	:地上 1 階 / 地下 3 階
建築物の高さ	:4 m程度
構造	:鉄筋コンクリート造（想定）

07 配置計画

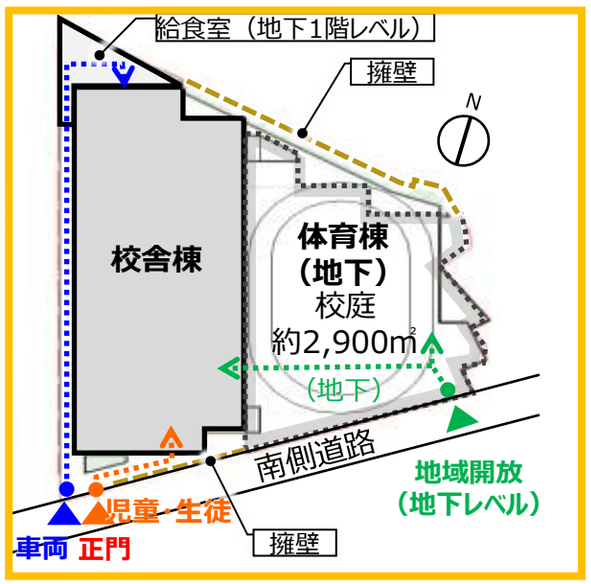
新校舎配置の考え方

- 建て替え準備委員会においても、配置パターンと評価項目により比較しながらメリット・デメリットを紹介し、意見交換を行いました。最終的に敷地の西側に校舎を配置し、校庭の地下に体育エリアを配置する案を選定しました。
- 選定した配置案は、校庭面積を既存面積同等以上かつ可能な限り整形に確保し、教室や管理諸室を集約配置して、運用しやすく良好な教育環境を実現できる計画です。

既存鉢山中校舎配置



配置計画イメージ案

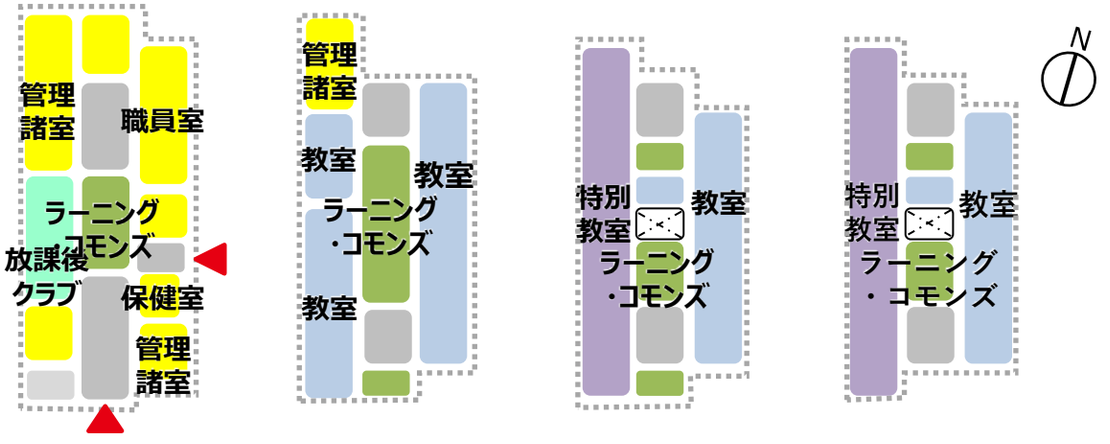


08 学校施設のゾーン構成

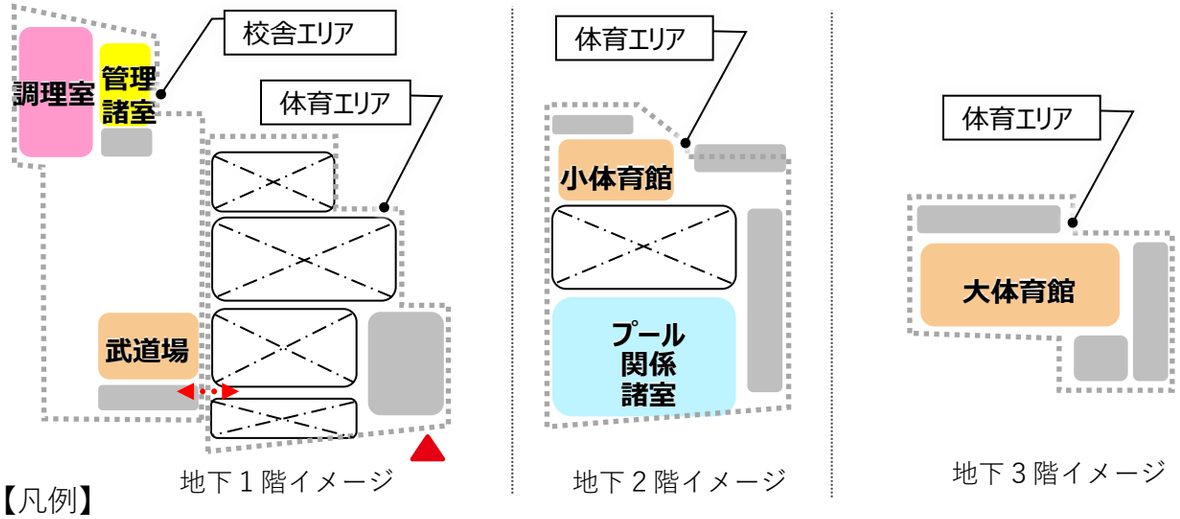
新校舎の機能配置の考え方

- 新校舎の中心にはラーニング・コモンズを配置し、普通教室や特別教室などをラーニング・コモンズに面するように配置することで、多様な学習スタイルにも対応できる場とすることを目指します。

校舎棟



体育棟



【凡例】

- ：教室（普通教室・少人数教室 特別支援教室・特別支援学級 等）
- ：ラーニング・コモンズ・図書スペース
- ：特別教室
- ：管理諸室
- ：給食関連
- ：体育関連
- ：プール関連
- ：放課後クラブ
- ：階段・EV・トイレ等
- ：主出入口

WEBアンケート ご協力のお願い

猿楽小学校・鉢山中学校の建て替えにあたり、皆様のご意見をお聞きし、今後の設計等を進める際の参考にさせて頂きたいと考えております。

アンケート回答先 https://forms.office.com/r/wg50g1Et9t

左記のQRコードを読み取るか、URLからアクセスしてください。
9月9日までにご回答をお願いします。

基本計画素案

基本計画素案の詳しい内容は、右記QRコードからご覧いただけます。
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kodomo/gakko-kyoiku/new-gakko/atarashii_gakko_dukuri.html#h2-h75f08bbc25
掲載期間：９月９日まで

問い合わせ先

渋谷区教育委員会事務局　教育政策課　学校施設整備第一係、第二係、第三係
TEL：03-3463-2795　Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo